

## ■効果の見える治水事業

### 徳島県 穴吹川(美馬市木屋平)の治水事業 「穴吹川総合流域防災事業」

徳島県土木整備部河川局砂防防災課長 平田 優裕



本県は、中央構造線をはじめとする活断層が東西に走り、それらの影響で急峻な地形、脆弱な地質が形成され、加えて台風常襲地帯であることから、過去から幾多の土砂災害が発生しています。

近年では、平成16年に相次ぐ台風により県下各地で土砂災害が発生したところがありますが、それ以前の代表的な大災害としては、昭和51年9月の台風17号による災害が挙げられます。総雨量は、剣山(徳島地方気象台)1,837.5mm、木頭村日早(四国電力)2,781mmに達し、剣山周辺の地域で土石流や地すべりが発生するなど県下に激甚な災害をもたらし、人的被害25人、家屋被害321棟、床上浸水4,070棟などの被害が生じるとともに、その復旧、復興に長期の期間と多額の費用を要しました。

穴吹川においては、上流の富士ヶ池谷において大崩壊が発生し、流出した土砂が木屋平川上地区で氾濫・堆積し、周辺の家屋や農地を埋め尽くし壊滅的な被害が生じました。

その川上地区で、現在進めている穴吹川総合流域防災事業は、周辺の自然環境への調和を図りつつ、豪雨時の過剰な流出土砂を河道内に堆積させ、下流の人家密集地を保全することを目的としており、川幅の拡大や緩傾斜護岸・魚道の整備を行っています。

近年は、局地的な集中豪雨など気象現象が激化する傾向が顕著になっています。一方、土砂災害危険箇所が多い中山間地域では、過疎化や高齢化が進行しています。今後も、これらの自然条件、社会条件の変化に対応し、ハード・ソフト一体となった的確な土砂災害対策を進め、県民の安全・安心をしっかりと守って参りたいと考えています。



#### 【事業概要】

- ・事業名 総合流域防災事業
- ・事業費 1,470,000千円
- ・事業期間 平成10年度～平成22年度(予定)
- ・整備内容 施工延長700m、床固工8基

## 「～災害に強いまちづくりのために～」



徳島県美馬市長 牧田 久

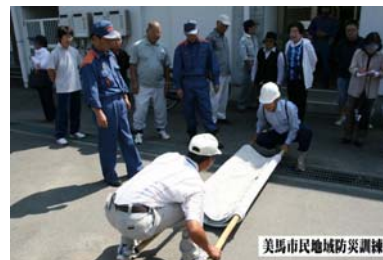


美馬市は、徳島県の西部(県都徳島市から約40km)に位置し、西側が三好市、美馬郡つるぎ町、北側が阿讃山脈の山頂で香川県と接し、豊かな自然と数多くの文化財が残る歴史情緒あふれるまちです。市のほぼ中央を東西に四国三郎「吉野川」が流れ、穴吹川など幾多の川が吉野川に流れ込み、その沿岸の平野部が主な可住地となっています。北側の阿讃山脈、南側の剣山をはじめ、ほとんどが山地で、総面積367.38km<sup>2</sup>の約8割が森林となっており、豊かな水と緑に囲まれた自然美に満ちた、素晴らしい地域です。

中でも、市内南部を縦断するように流れる、穴吹川は、14年連続の水質四国一の評価をいただいている清流であります。

しかし、現在の清らかで美しい市内各河川も数十年前までは、出水時には、毎年のように氾濫を繰り返し、各地域に大きなダメージを与えてきたのも事実であります。

特に、昭和50年、51年と連続して大災害を受けた穴吹町においては、当時、早急な土砂災害対策への取り組みが急務であり、国の指導並びに徳島県の協力を得ながら、砂防堰堤や護岸工をはじめとする、各砂防施設整備に力を注ぎ、地域の機能回復と住民の安全確保を図りました。今では、それらの施設も、その機能を十分に発揮すると同時に、近隣住民の安心の杖となっています。また、その後も、被災に対する心構えを怠ることなく、災害対策としての砂防事業において、地域や行政がより一層連絡体制を密にしなが、事業自体が後手に回ることなく、先手先手の諸施策を展開することで、土砂災害に対する地域の安全性や生活クオリティーの向上をもリンクできるよう、流域全体を捕らえた、将来性のある各事業の展開を図るべく計画を行っています。



なお、美馬市では、近年においての、異常気象の影響で、何時何処で起こるかもしれない、ゲリラ豪雨や土砂災害に対し、各防災施設の整備のみでなく、人的組織の強化にも注目し、自主防災組織の結成や地域消防団との連携、各種防災機器の設置も併せて行うなどしながら、まちぐるみでの、総合力のレベルアップのため努力しているところであります。今後も、各地域の危険区域の調査や実情の把握を十分に行い、地域住民の生命、家屋、生活を守るための砂防事業を注意深く、慎重かつ迅速に進めて行きながら、対象地域の環

境面にも配慮した事業を推進していきたいと考えております。

最後に、過去の災害のことを忘れることなく、だれもが安心して暮らせる居場所を確立し、常に人々に元気を与えられ続けることができ、更には、明るく、力強く、誰もが住みたくなるまち、『四国のまほろば美馬市』を目指し、尽力したいと考えておりますので、関係諸機関の皆様方には、今後ともご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

